

(8) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

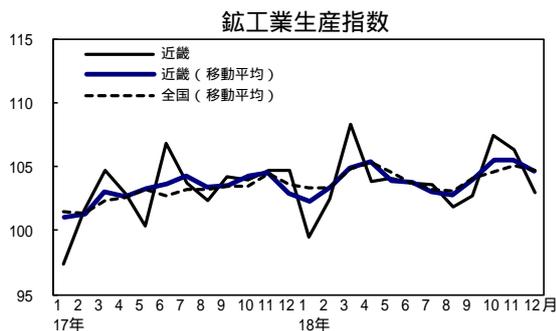
前回からの主要変更点

	前回(平成30年11月)	今回(平成31年2月)	
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、一服感	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

10 - 12月期には、「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、台風21号からのばん回生産等もあり、増加した。「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、台風21号を受けた復興需要等により、増加した。「食料品・たばこ」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		7 - 9月期	10 - 12月期	10月	11月	12月
汎・生産・業務用機械	20.8	1.5	0.8	1.4	5.2	2.9
石油・石炭、化学、プラ製品	19.9	5.1	9.1	11.4	0.3	4.8
電子デバ、電気・情報通信	15.4	0.0	0.4	3.5	4.3	1.4
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	14.1	0.1	4.1	2.3	5.9	5.9
食料品・たばこ	8.7	0.5	2.3	2.2	2.0	5.0
鉱工業	100.0	1.1	2.8	4.6	1.0	3.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10 - 12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。

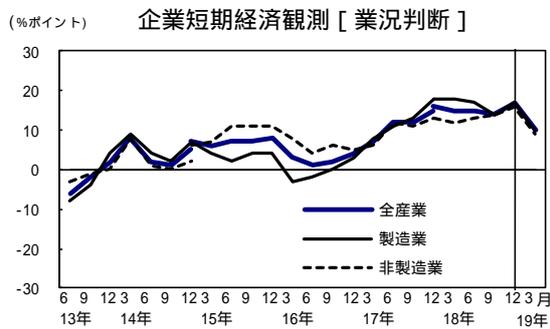
直近月は2か月平均。

3. 近畿は内閣府にて算出。

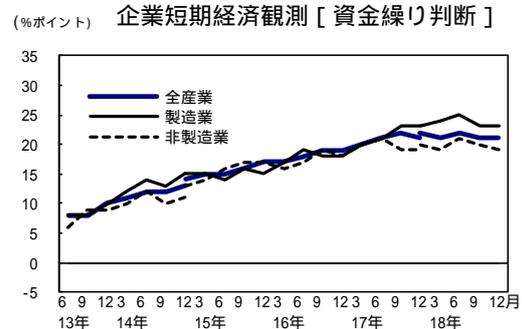
(8) 近畿

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

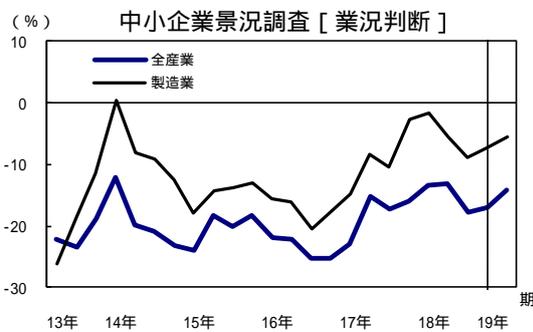
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」-「悪い」回答者数構成比。2019年3月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。



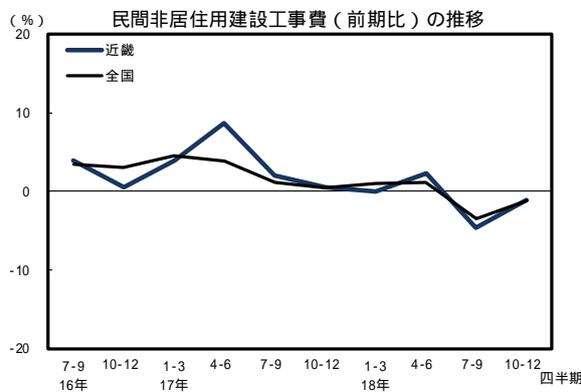
(備考) 「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」-「悪化」回答者数構成比。2019年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]
「年度予算を考慮した受注調整のため、売上が減少傾向にある(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]
(前年度比、%)

	2017年度実績	2018年度概
全産業	4.3	17.4 (1.1)
製造業	12.2	16.4 (1.3)
非製造業	1.3	18.2 (1.0)

(備考) ()は前回(9月)調査比修正率。

- (備考) 1. 季節調整値
2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比1.7%増、11月は同0.6%減、12月は同0.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額

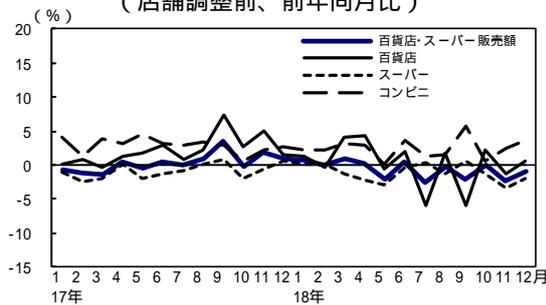
百貨店は、10月は「飲食料品」等が好調だったことから、前年を上回った。11月は「婦人・子供服・洋品」、「飲食料品」が振るわなかったことから、前年を下回った。12月は「身の回り品」や「その他の商品」が好調だったことから、前年を上回った。

スーパーは、10-12月期は「婦人服・子供服・洋品」、「その他の商品」が振るわなかったことなどをを受けて、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「年末に始まった4K放送であるが、当初予測していた以上に客の関心は高く、申込者も増加している (通信会社)」などの回答がみられた。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2018年10-12月	2018年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.2	1.7	0.6	0.2
百貨店・スーパー(*2)	1.1	0.1	2.5	0.9
百貨店(*3)	0.5	2.3	1.2	0.5
スーパー(*3)	2.2	1.4	3.3	1.9
コンビニ(*3)	2.2	0.5	2.5	3.6
乗用車(*4)	7.8	14.1	10.9	1.3
(季節調整値)(*4)	2.1	3.5	0.3	2.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

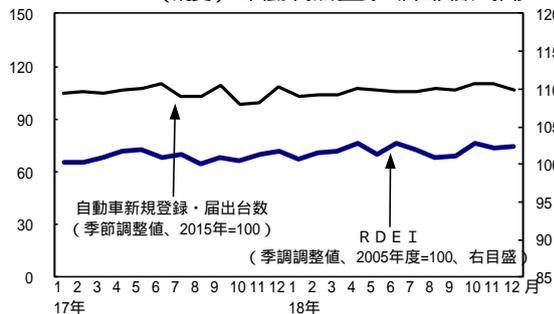
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿 (福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山) の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

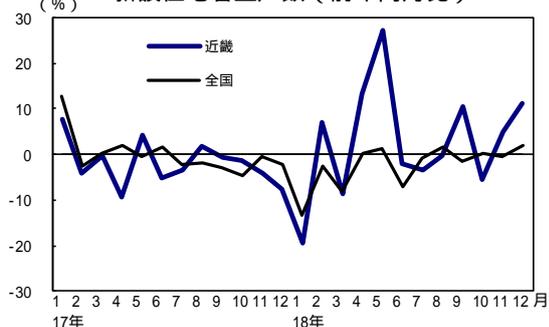


(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。

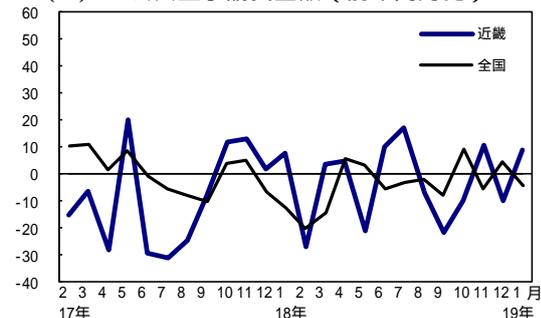
貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)



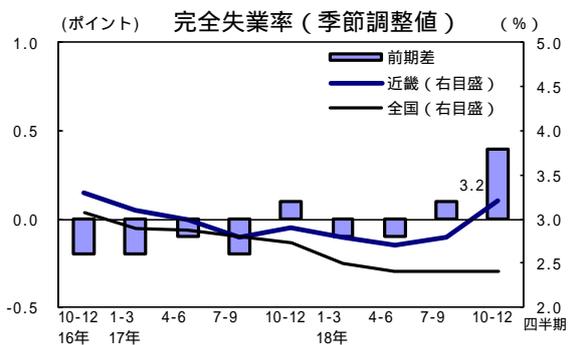
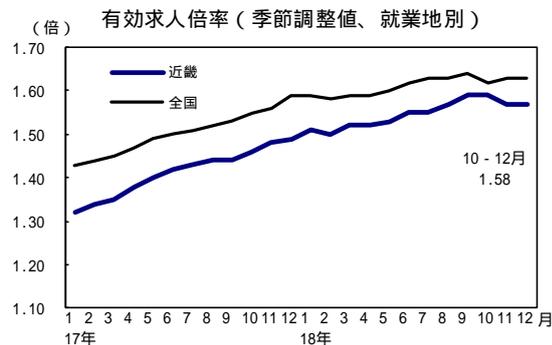
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[雇用関連(現状)]

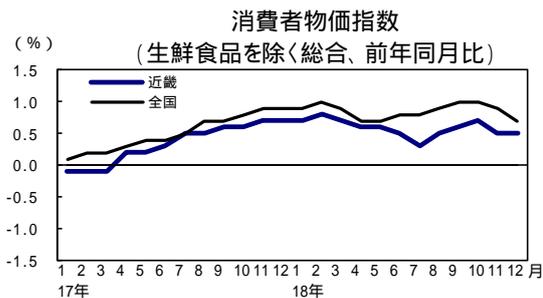
「人材マーケットの動きについては、引き続き人手不足の状況に大きな変化はなく、それに伴い、処遇の緩やかな改善が続いている(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	2018年				2019年1月
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
倒産件数 (前年比)	537 6.1	550 2.3	471 16.0	539 0.4	185 6.9
負債総額 (前年比)	616 28.1	655 16.8	566 0.8	570 5.7	122 32.3



景気ウォッチャー調査(季節調整値)

